

消化器・肝臓センター

NEW一す

NO. 57

2020.3

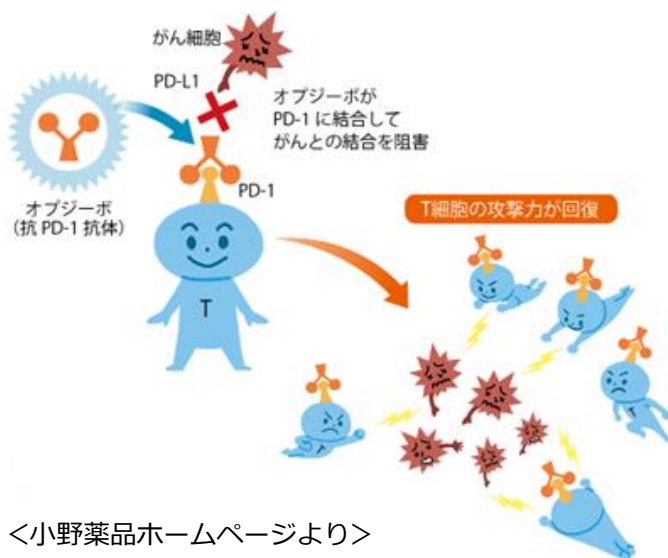


胃癌に対する免疫療法

2018年に本庶佑先生が「免疫抑制の阻害によるがん療法の発見」でノーベル賞を受賞されました。本来免疫系は癌を攻撃する能力をもちますが、癌が免疫系にブレーキをかけて攻撃を防いでいます。このブレーキを外し、免疫系が癌を攻撃できるようにする免疫療法薬剤が開発され、癌と共存しつつ長く生きることも可能となっています。

免疫療法薬剤の登場

胃癌ではその1つであるオプジーボを用いた治療が有効であることが示され、進行再発胃癌全例に対し適応となり、1次、2次の抗癌剤が効かなくなった後の3次治療以降での使用が推奨されています。また、条件を満たす人に対して、同様の機序をもつ免疫療法薬剤であるペムブロリズマブも進行再発胃癌で適応となり、2次治療以降で使用が推奨されています。



重要性の確立

この免疫療法では、これまでの抗癌剤で認められた嘔気、嘔吐の副作用はほとんど認められなくなり、また、人によっては、これまでの薬剤よりも長期にわたって効果が認められ、投与を終了した後も効果が継続することもあります。

免疫療法は、悪性腫瘍に対する化学療法、手術療法、放射線療法と並んで4本柱の1つとしての重要性が確立し、今後の発展も期待されています。

外科 川田純司、今本治彦

市立貝塚病院
TEL : 072-422-5865

